

【2006年度卒業・修了 記念特集】卒業式・学位記授与式行われる

大きく羽撃け鳳の志 — 日高義博・学長からのメッセージ

06年度の専修大学卒業式・学位記授与式が穏やかな日中に恵まれた3月22日、東京・千代田区の日本武道館で行われた。学窓を飛び立つ学部卒業生、大学院修了生、専門職大学院(法科大学院)修了生あわせて4304人を、恩師やご父母らが祝福した。

学位記、川島記念賞が各総代に贈られたあと、日高義博学長が式辞の中で「今日の複雑化した社会において、社会知性の開発に携わる皆さんの活動は、社会に光を与えるものと確信します」と激励した。卒業生、修了生を代表して中村健太郎さん(経済学部)が「本学で培った社会知性を生かすことで己の糧とし、これからの試練を乗り越えていきます」と謝辞を述べた。



▲喜び満開！ 胴上げされる卒業生＝日本武道館前で

大学院と法科大学院の学位記授与は会場を変えて行われた。

学長式辞 日高 義博

混迷した社会に光を

時には華々しく 時にはひそやかに そしてすがすがしく、凜として

◀以下要旨です。全文は[こちら](#)▶

在学中に皆さんは、自己の殻を破り自己の進むべき道を見いだしたでしょうか。自己探求に要する時間は、人さまざまなので、答えは一律ではないでしょう。しかし、だれもが大きく変身しつつあるのは確かです。これまでの大学教育によって自然と「ものの考え方」が身につけているはずですし、これからの人生の節目に大学教育で与えられた羅針盤が威力を発揮していくことになります。



創業者である相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の4先生の名前は、周知のことと思います。学窓を飛び立つに際し、創業者たちが専修大学に託した夢がどのようなものであったかを再認識し、専修スピリットを持った人材として社会に大きく貢献する決意を、本日新たにしていきたいと思います。

全入時代に入し、「大学は本来何のためにあるのか。私学の使命は何なのか」という根本的な問題に立ち戻って考える必要があります。大学は、教育・研究の場ではありますが、最近では地域貢献、社会貢献も大学の課題の一つに加えられています。大学と社会との関係は、本来、相互に作用すべきものです。中世の学問体系である神学、医学、法学、哲学という4分野の成り立ちからしても、解決すべき課題は大学の外にありました。大学は社会の変動と無縁ではありえません。しかし、大学は、社会に現在する問題を解決する方策を教授・探求するだけでなく、社会のあるべき姿を提示していく責務も負っています。

大学のあるべき姿を、本学の創立者たちは十分に自覚していたからこそ、当時、外国語によってしか教授されていなかった法律学、経済学を日本語によって教授することにより、日本の社会の骨格を担う若者が問題を自ら発見し、かつ主体的に問題を解決する力を身につけさせようとしたのです。このことは、本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」に結実しています。

「社会知性」は、社会の諸課題を解決するための知的能力を言います。社会がどのような問題解決を求めているのかということに胸襟を開くとともに、社会のあるべき方向性を主体的に発信していくことが必要です。しかも、社会知性の開発を担う人材には、人間性と倫理観が備わっていなければなりません。人の痛みを理解し、喜びを共に分かちあえる人間でなければ、よりよき社会の発展は描けません。制度や仕

組みを動かすのは、人間であり人の心なのです。

創立者たちの建学の精神を21世紀に花開かせるため、学窓を飛び立つ皆さんは、専修人として、社会のそれぞれの持ち場で社会知性の開発に寄与する責務を負っています。ある時は華々しく、ある時はひそやかに、しかし、すがすがしく、凜として責務を果たされることを期待してやみません。価値体系が崩れ、規範意識が希薄になってきている今日の複雑化した社会において、社会知性の開発に携わる皆さんの活動は、混迷した社会に光を与えるものと確信しています。

創立130年に向けてさまざまな記念事業が展開されています。4月には、約5400人が収容できる生田10号館(130年記念館)がオープンし、向ヶ丘遊園駅前にはサテライトキャンパスを開設することが決定しています。専修大学の知の発信がなされます。本学は、さらに飛躍することになるでしょう。専修大学の歴史と伝統は、校歌に「我等が行く手は光に充てり」と歌わしめるだけの重みと基盤を持っています。これからの専修大学の歴史を刻んでいくのは、建学の精神を社会に花開かせる皆さん自身です。専修大学で学んだことに自信と誇りを持ち、それぞれの分野においてパワフルにかつハートフルに活躍されますことを祈念し、私の式辞といたします。(要旨)

【2006年度卒業・修了 記念特集】

「知の発信」の新たな拠点に 新校舎完成—地下1階地上6階建て

創立130年記念事業の一環として、2005年10月から建設工事を行っていた「生田10号館(130年記念館)」の落成式と祝賀会が3月24日、日高義博学校法人専修大学理事長・学長をはじめ大学関係者、工事関係者ら170人が出席して、執り行われた=写真。収容人員約5400人の新校舎は地下1階、地上6階建てで、延べ床面積は約2万1000平方。アカデミーモール、情報コアゾーンなど「知的創造の場」となるように設計され、「知の発信」の新たな拠点として期待される(建物の詳細は次号で)。

